

特集：医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育

# eラーニングを活用した看護技術演習における動画の撮影・視聴による自己学習の工夫

徳永 基与子\*, 平野 加代子\*

## e-Learning Based Self-Learning of Nursing Skills by Video Recording and Watching

Kiyoko TOKUNAGA\*, Kayoko HIRANO\*

### 1. はじめに

医療の高度発展や少子高齢化社会のなか、臨床における看護師の看護実践能力は患者の生命や健康に大きな影響を及ぼす。なかでも看護技術は直接患者に提供されるため、その習得状況は看護技術の質を左右する。しかし看護基礎教育においては、限られた時間のなかで、多くの実践技術の習得は困難な状況にあり、教員による教授方法の工夫や学生の自己学習は必要不可欠といえる。一方、2001年大学設置基準の改正を受け、看護学教育においても、看護実践能力の育成という看護系大学の教育活動上のニーズを踏まえてeラーニングの導入が試行されている。栗原は「個々の学生のレディネスに合わせた学習者主体の教育のために、Computer Assisted Instruction (CAI) の導入およびマルチメディア CAI 教材の開発は、看護基礎教育における看護実践能力の向上に意義は大きい<sup>(1)</sup>」と述べている。看護実践能力である看護技術の習得にはイメージ形成が不可欠であり、その習得を促進するうえで看護技術の自己評価は欠かせない能力と考える。特に姿勢や動作・表情などの客観的な観察および評価には、自己の看護実践の動画視聴は効果があると考えられる。

そこで今回、看護技術の学内演習にeラーニングによる動画視聴を利用した自己学習を組み込んだ学習プログラムを実施し、本学習プログラムと学習効果について報告する。

### 2. 本学の看護技術演習の学習プロセス構成

本学では1年次前期で、看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ(以下演習Ⅰ)が開講される。主に日常生活を支援する看護技術の習得を目指す科目である。看護技術論Ⅰで看護技術の提供に必要な知識を学習し、その知識をもとに演習Ⅰでは、模擬患者(学生)への看護技術の提供を体験する。演習Ⅰは、主にグループワークを主体に進める。その後、何度も自己学習で援助の体験を繰り返すことで看護技術の習得を目指す。1学年103名を、Aクラス52名・Bクラス53名で演習Ⅰを実施している。1グループ3～4名で計17グループを、5人の教員が指導する体制である。

本学習プログラムの目的は、以下の3点である。

- ・自己学習を促進できる。
- ・自己の動作を客観的に確認し、自己評価できる。
- ・他者の動作を参考に、自己の援助を工夫できる。

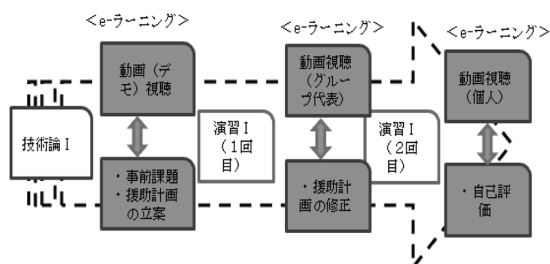


図1 看護技術の学習プロセス

\* 京都光華女子大学健康科学部看護学科 (Kyoto Koka Women's University)

受付日：2013年5月2日；再受付日：2013年7月22日；採録日：2013年9月24日